

# 人間ドック健診施設機能評価 Ver.4 総合評価

**施設名： 一般財団法人 石川県予防医学協会**

## **受審施設の概要**

石川県予防医学協会は金沢市にあり、1952年に設立された。施設は4階建てで、3階が健診専用フロアとなっており、4階にクリニックが併設されている。

石川県全域を対象とした予防医学事業を中心に、あらゆる検診に対応した施設である。また、精度管理やコンプライアンスにも取り組み、ISO9001・27001も取得している。受診者に安心・安全なサービスを提供するために、第三者による評価、認定取得に積極的に取り組んでおり、評価できる。

年間の受診者数は、一日ドックが約7,900人であり、その他の施設内健診は約73,000人を実施している（生活習慣病予防健診約12,000人、労安法に基づく検診約46,000人、特定健診約3,000人など）。さらに検診車による巡回検診を約21万人実施している。なお、二日ドックは実施していない。

本機能評価は、今回が初回の審査である。

## **第1領域 理念達成に向けた組織運営**

理念と基本方針が定められており、毎年見直しも行われ、全職員総会にて発表されている。

個人情報保護に向けては、ISO27001を取得し、情報の取り扱いと方針が明文化され、職員にも徹底されている。

就業規則等各種規程は作成され、就業規定内に職業倫理も包含されている。職員の相談窓口も明確化されており、メンタル等の相談は産業医が担当するなど、対策が講じられている。

中期経営計画・年度事業計画・予算書等が作成されている。事業計画では、ボトムアップ体制が取られており、提案する仕組みがある。一方、予算書・事業計画書には作成日の記入がないため、明記が必要である。

職員の体制は、健診管理医師が予防医学クリニックも管理されており、連携体制は密に行われている。スタッフは各部署にて確保する体制であり、適正な人員をほぼ満たしている。人間ドック健診専門医、認定医、指導医を取得しており、医師以外の専門資格者も多く有しており、質の確保に努めている。有効切れの認定書が散見されたため、再度の整理を望む。また、各委員会も設けているが、全体の委員会把握の為、組織図の作成を願いたい。

教育体制については、年間計画に基づき充実した形で構築されており、不参加の職員に対しても周知する体制が整っている。職種毎の教育についても、各学会専門医による読影の指導や異常症例の供覧、管理職研修等が実施されている。

医療安全管理体制については、委員会が設置されマニュアルも整備されている。受診者の9割は内視鏡対応であり、プロトコルが作成されており評価できるが、作成日の記入を望みたい。感染管理や安全衛生管理の体制は適切である。

情報の管理体制は、ISOに沿った対応となっており、サーバー室への入退室管理やパスワードによるアクセス制限等は適切である。今後、災害時の情報の二次保管場所にも一考願いたい。

委託管理については、ISO品質管理に基づき委託先の評価を行っており適切である。調査時に委託業者の選定、業務評価の検討内容の提示がなく、整理を望む。

高齢者や障害者等、配慮が必要な受診者への対応については、トイレは2階に移動する必要があるが、3階のドック専用フロアはバリアフリー化され、車いすでの移動も容易である。今後、検査時のベッドの高さ調整や老眼鏡、補聴器等、より一層の対応が検討されることを期待する。

外国人受診者については、受け入れの実績は少ないが、ポケットークを準備するなど、対策が講じられている。将来、需要が増えることを想定した、受付対応部署等のシミュレーションも検討されると良い。

## **第2領域 受診者中心の良質な健診の実践**

予約・受付の業務は、マニュアルに沿って実施されている。収受業務は複数担当制が取られている。

人間ドック学会が提示する基本検査項目のうち、胸部X線は1方向撮影となっており、契約上2方向撮影している受診者は少なく、施設では低線量CTを推奨している。X線2方向撮影の実施体制の整備が望まれる。

受診環境は、平日以外にも年3回の日曜日、月2回の土曜日にドックが実施されている。男女別々の待合室も設けられ、レディースデイは月2回、女性スタッフのみで実施され、女性受診者へ配慮されている。オプション検査の当日追加・変更も可能であるが、事前説明文書では変更不可となっており、改善が望まれる。

ドック受診者専用のフロアは、スペースも十分に待合室はゆったりしている。清掃が行き届いて清潔で、受診者数に比しゆとりがある。また受診者の希望によりタブレット端末の貸し出しも行われ、待ち時間の対策も行っている。受診者の呼び出しは名前であるが、番号での呼び出しにも対応している。診察室・面接室は個室となっているが、採血室は低い衝立のみで隣が見え、採尿など検体も人目につくようになっており、プライバシーへの配慮に工夫が必要である。上部消化管部X線と内視鏡、マンモグラフィ、CT検査は別フロアで実施され、私服の健診受診者やクリニック患者と待合で混在する。検査の時間帯など、健診受診者と外来患者が混在しないような配慮、工夫が望まれる。

事前の送付書類やホームページの内容は適切で、必要な情報が提供されている。医療面接、診察、各種検査担当者は明確で、各部屋に担当者名が明示されている。受診者の質問・相談には医療職が対応することとなっており、各検査のマニュアルも作成されているが、質問や相談を記録に残す体制の整備が望まれる。受診者の既往歴やアレルギーなどは看護職による詳細な医療面接時に把握・記録されており、次回受診時に共有され事前ミーティングにて確認されている。リスクに関する説明と同意書取得も適切である。受診者急変時のマニュアルが作成されており、救急カートも整備されている。心肺蘇生の研修会や訓練も行われている。

精度管理体制は適切で、業務マニュアルは作成されており、パニック値やトラブル発生時の対応も整備されている。始業点検の実施や内部精度管理の体制も確立されており、定期的に複数の外部精度管理のサーベイにも参加し良好な評価が得られている。腹部超音波、マンモグラフィ、内視鏡検査などは学会等の施設認定を取得している。

検査結果の判定は、人間ドック学会の判定区分に基づき行われている。画像読影は人間ドック健診専門医や放射線科専門医による二重読影が行われている。心電図は人間ドック健診専門医が行い、判定に苦慮する場合は非常勤の循環器専門

医に相談している。眼底写真は眼科専門医が判定している。また石川県予防医学協会集検事業管理指導委員会が年2回開催され、多数の外部医師も含めて読影や判定を検討しており、要精検指示率は5%以下となっている。

医師による結果説明は、3名の担当医師により人間ドック受診者全員に対して、診察の際に十分な時間をかけて実施されている。胸部X線写真、腹部超音波、上部消化管X線写真、内視鏡検査などの画像もモニターに提示しながら結果説明がなされており、後日結果の変更があることも説明され、当日の説明内容も記録され評価出来る。

保健指導は、常勤保健師6名の体制で行われている。特定保健指導に関してはマニュアルが作成され体制は整っているが、人間ドック健診の結果に基づく保健指導実施体制は確立されていない。保健指導も組み入れたプレミアムドックを開始しており、今後の保健指導体制の確立が期待される。

### **第3領域 継続的な質改善の取り組み**

受診者の要望を把握する体制としては、ご意見箱が設置されているが投書は少ない。数千人に対する大規模なアンケート調査が行われており、医局会や各部署で検討が行われている。日々の受診者からの意見や要望はスタッフが直接聞くことでその都度報告がなされているが、受診者満足度向上に向け、受診者に対する改善活動の体制確立が望まれる。

フォローアップについては、マニュアルに基づき、健診3か月後・6か月後に保健師による未受診者への受診勧奨が行われている。要精検率は5%以下と適切であるが、精検受診率は平均62%と向上の余地があり、更なる改善を望みたい。

今回の受審を機に、重症化予防のために要治療と判定した症例のフォローアップ体制が整備され、健診3か月後に医師が電話による経過把握を行っている。各職種が役割分担することで効率的な運用を目指されており、体制の確立に向けて今後も工夫されることを望みたい。

追跡検査のフォローアップについてもマニュアルが整備され、併設クリニックでの受診者を把握して、自施設の判定や保健指導の評価に活用するよう取り組まれている。体制整備後の取り組みは評価でき、継続的な運用を期待したい。

受診者の紹介は、石川県指定の精密検査医療機関のリストに基づき行われている。予防医学に関するセミナーなどにも参加し、施設管理医師が石川県の肺がん検診担当として選任されている。

健診結果の分析については、毎年受診者統計が作成され、事業報告としてまとめられている。各種学会の調査研究にも参加しており、学会発表や論文発表も積極的に行っている。

受診者に向けた有用な情報提供としては、施設内に電子掲示板が設置され、パネルやポスターを用いて各疾患の説明を行い、情報提供に努めている。なお、食事の提供は2014年より中止となっており、今後、栄養指導も含めた対策に期待したい。

健康経営に向けた保険者等に対する取り組みとしては、年報を作成し、契約事業所への働きかけを行っている。今後、渉外担当者の増加に伴い、より一層健康経営、産業保健活動に努めて頂きたい。

業務改善の体制としては、品質情報管理委員会が継続的に業務改善に取り組んでいる。

## 総括

人間ドックの充実に向けて、健診の質について意欲的に検討を続け、方針を職員と共有しながら業務に取り組んでいる。結果説明は受診者全員に実施する体制が取られており評価できる。一方、健診受診後のフォローアップはスタートしたところであり、新たな取り組みが今後の健診に反映されて、更に充実した施設となることが期待される。

総合的見地から、人間ドック健診施設機能評価の認定（新規）に値すると判断する。

審査日 2020年6月11日

認定承認日 2020年6月17日